

発刊に際して

WHOは世界人類の保健と衛生を担当する国連の専門機関でその目的は人びとが健康を楽しみつつ職分を通して社会国家に寄与し人類の平和に貢献しようとするものである。およそ、その国が興り、その社会が栄えるためには人びとが心身ともに健康であらねばならないのであるが、WHOはこうした意味で保健衛生の増進を目標に1948年に発足し今日では世界129カ国が加盟しており、わが国も昭和26年に加盟してその高い文化と進んだ医学とで世界の人びとの長寿と健康のために多くの貢献をしているのである。

昔から人生50年といわれているが今日では人生は70年か80年かも知れない。かように平均寿命がのびたということは即ち各人の健康度が著しく上昇したということによろこびに堪えないが、しかし同じく健康といっても人びとによって格差があり程度がある。つまり健康美が躍動している状態からわずかに健康を保っている程度もあり、健康に破綻を来しているものもある。また健康は単に肉体だけではなく精神の作用が大いに関係するし、その保健衛生上の手段も千差万別だ。こう考えるとWHOの使命も多岐ならざるを得ない。

目で見るとWHOはこうした見地からその目的と手段を端的に明かにしようとしたもので、百聞は一見に如かずである。

日本WHO協会の今年のテーマは「みんなで築こうあすの健康」であるがこうした目標は大衆に根をおろさねばならず、マスコミの自覚と協力をほかにしては達成されないのである。こうした意味からも大衆と共にあゆまれる蜷川京都府知事が、日本WHO協会の趣旨に深いご理解をいただき、協会育成に多大のご支援を賜わったことを茲に深く感謝するとともに、こうした小冊子がこの遠大な目標のPRに、またその達成に効果的な寄与をもたらし、人びとの健康への道しるべとなれば幸であり、大方のご協力を願って止まない次第である。



日本WHO協会 会長

中野種一郎

WHOと紋章



WHO（世界保健機関）とは、国連の仕事のうち保健衛生の分野を受け持つ専門機関で World Health Organization の頭文字をとって WHO（ダブルユー・エイチ・オー）と呼んでいる。

その目的は全人類の健康を守るために、世界の国々が力をあわせ努力しようとするものである。

なおWHOの紋章は、国連紋章の中央に医術の神といわれるヘビとギリシャの医神イスキュレピアスの杖を配したものである。



すべての人民の健康は
世界の平和と安全を達成する基礎である

……WHO憲章前文より……



アジアから…アフリカから…ヨーロッパから…

世界のこどもは訴える

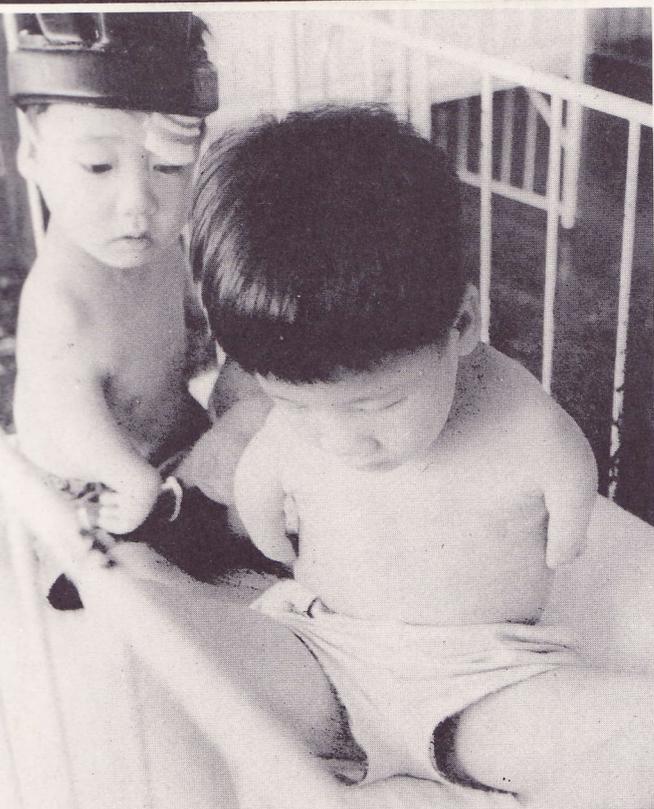
健康とは

健康とは肉体的、精神的および社会的福祉の完全な状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない。

到達しうる最高水準の健康を享有することは、人種、宗教、政治的信念または経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである……

……児童の健全な発育は、基本的重要性を有し、変化する全般的環境の中で調和して生活する能力は、このような発育に欠くことができないものである。

……WHO憲章前文より……



サリドマイド被害児



飢餓におびえる中近東難民

この人たちも健康で幸福になる権利がある



健康と福祉

人はすべて、自己および家族の健康と福祉のために、衣食住、医療および必要な社会厚生施設を含むところの十分な生活水準を保持する権利を有し、更に失業、疾病、不具、配偶者の喪失、老令、または不可抗力による生活不能の場合に保障を受ける権利を有する。

母と子とは、特別の保護と援助とを受ける権利を有する。すべての児童は、嫡出であるか否かを問わず、同一の社会的保護を受ける。

……世界人権宣言第25条……



〔写真上〕 この子供はフランベジアというぞっとするような悲惨な病気にかかっている。しかし、この病気もペニシリンを注射することによってなおることがわかった。



〔写真左〕 この子供の母親はライ病にかかりすでに足の指がなくなっている。しかしこのライ病も新しい硫黄系製剤で治療すれば伝搬を喰い止められることが証明された。

全人類は立ち上がった 1948年4月7日 世界保健機関(WHO)誕生

一つの病気が、一つの大陸から他の大陸に伝播することを防止し、また全世界の人類が健康を維持し増進するためには、国際的な協力が必要であり、そのための努力がこれまで数世紀に亘って続けられてきました。

第2次世界大戦が終る直前の1946年6月に連合国が「国際連合」を組織して、世界の平和を維持しようとサンフランシスコで会議を開きました。その時、ブラジルと中国の代表から、保健衛生の分野でも、国際的な常設機関を設けるべきだとの意見が出され、全会一致でこれを可決いたしました。

そしてこの案は、ロンドンで開かれた第1回国際連合経済社会理事会でも採り上げられ、翌年6月19日から7月22日までニューヨークで開かれた国際保健会議で、具体的な問題が相談されました。

その結果、国際連合の仕事のうち保健衛生の分野を受け持つ専門機関とすることになり、機関の名称を世界保健機関(World Health Organization =ワールド・ヘルス・オーガニゼーション)と決め、頭文字をとってWHO(ダブリュ・エイチ・オー)と呼ぶことにし、その理念、目的、機構、組織、活動範囲を規定したWHO憲章が作り上げられました。そしてこの会議の最終日に61カ国がこの憲章に調印したのであります。

しかし、この憲章は国際連合に加盟している26カ国の批准を了えてはじめて効力を発生するように、憲章自体の中で定めていたので、それが実現したのは約2年後の1948年4月7日であり、この日に史上はじめての世界各国が一つの組織の下にその力を結集し、世界中

のんびとをできるだけ高い健康水準に引きあげようとする世界的な保健機関が生まれたのです。

続く6月には、第1回の世界保健総会を開いて、今までの国際連盟の保健部や、パリにあった公衆衛生国際事務局の保健部の財産、事業等の引き継ぎを行ない、WHOの事業計画および予算の採択、加盟国の分担金割当等の事業をとり進めました。こうしてお膳立てが整ってWHOがその事業を開始したのは、1948年9月1日からであります。

世界保健デーは、WHOの憲章が効力を発生して、いわばWHOが誕生した1948年4月7日を記念する日であり今年の4月で20年目を迎えたわけであります。

WHOの組織

現在WHOには、129の国々が加盟し、その本部をスイスのジュネーブに置いています。

内部機関として世界保健総会、執行理事会および本部事務局の3つがあり、この他に世界の6地域にそれぞれ地域委員会と地域事務局からなる機関を置いています。これらの機関では、つぎのような仕事をしています。

(1) 世界保健総会

加盟国の代表で構成される立法機関で、毎年1回(通常5月)開催され、WHOの方針や計画を決定し、予算を採択し、また執行理事会や事務局の上級機関として、その指導監督に当たっています。

(2) 執行理事会

保健総会が選出した24の理事国が任命した24人の委員によって構成され、保健総会が決

定した政策を実施し、補足していく執行機関で、毎年2回会議を開いています。

(3) 本部事務局

本部はスイスジュネーブにおかれ、専門家や事務職員によって、WHOの日々の事務を担当し、またWHOの報告書や予算書を作成して理事会に提出しています。

(4) 地域委員会および地域事務局

地域的な事項に関する政策を立て、地域内のWHO事業計画予算を作成し、これが総会で認められると、WHOが各国に与える技術援助や予算がきまるわけです。

その地域および事務局の所在地は、ヨーロッパ地域(コペンハーゲン) アフリカ地域(ブラザーヴィル) 東地中海地域(アレキサンドリア) 東南アジア地域(ニューデリー) 西太平洋地域(マニラ) 南北アメリカ地域(ワシントン)となっています。

(5) 専門家諮問部会および専門家委員会

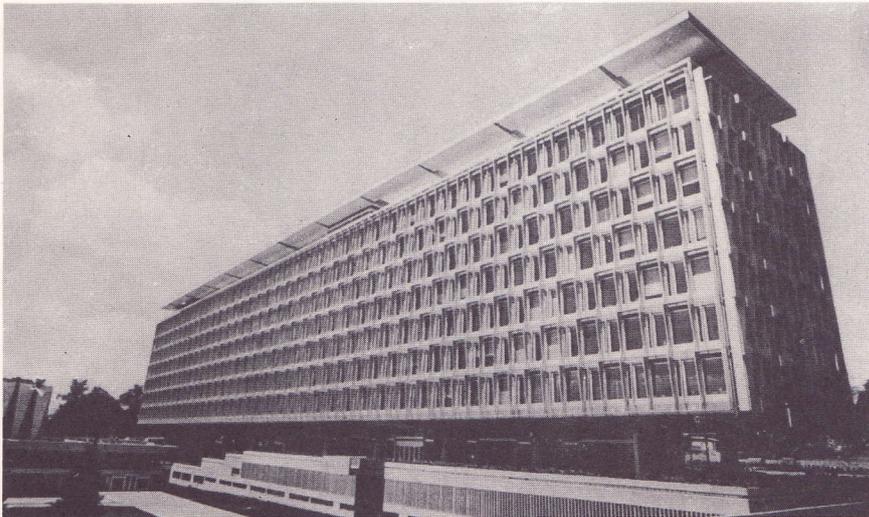
WHO 専門家諮問部会および専門家委員会はWHOの事業を技術的に最も進んだものであるようにするため、また最も新しい研究の成果にもとづいてWHOが事を処理し得るために公衆衛生、医療、薬事のあらゆる分野について全世界の最高権威者を厳選して網羅したものであって、現在44の部会があり、この部会のメンバーは、常時には文通でその技術的知識をWHOに提供し、また時にはその中から更に選出されて個々の専門家委員会に出席して討議を行なうこともあり、現在約2,500名以上の世界の学者が名前をつらねています。



保健衛生の 情報を集める

WHOが行っている事業には、いろいろあるが、WHOの本部事務局もしくは地域事務局を通じ各国との国際的協力の下に行なわれている。

まず第一に国際間の伝染病対策であり全世界にまたがる無線放送網を利用して世界の保健衛生情報を集め、各国政府に対し、疾病を防ぐための情報を通報している。



スイスのジュネーブにあるWHO本部事務局

保健衛生マンを 教育訓練する

仮に1人の医師が770人ずつ持けもっとしても現在の世界人口からすると350万の医師が不足している。これは恐るべき数字だが、さらに世界人口が倍増した日には、いったいどうなるのだろうか。医師になるには8～9年かかるが、医学教育については、常に将来の必要性を念頭におかねばならない。WHOは、保健衛生マンの研修を行なうとともに、奨学金制度によって各国の若い技術者に海外研究の便を与えている。

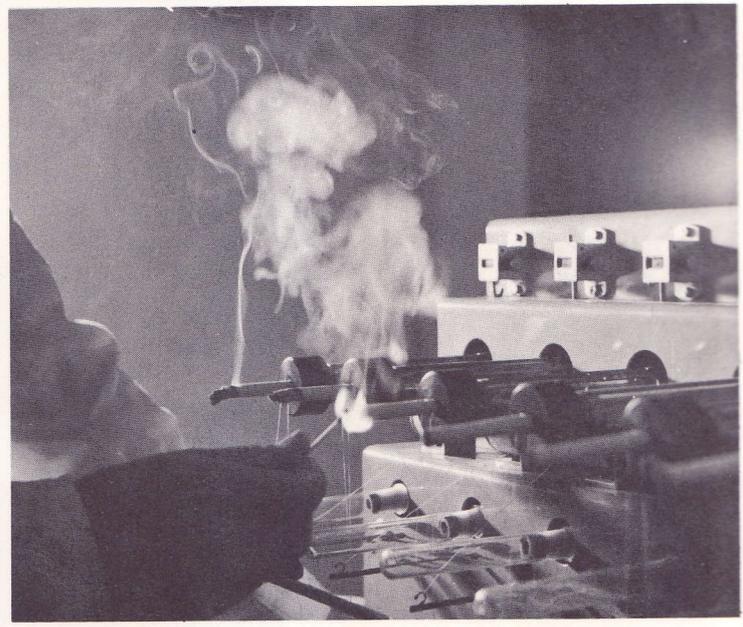




健康の維持 増進をはかる

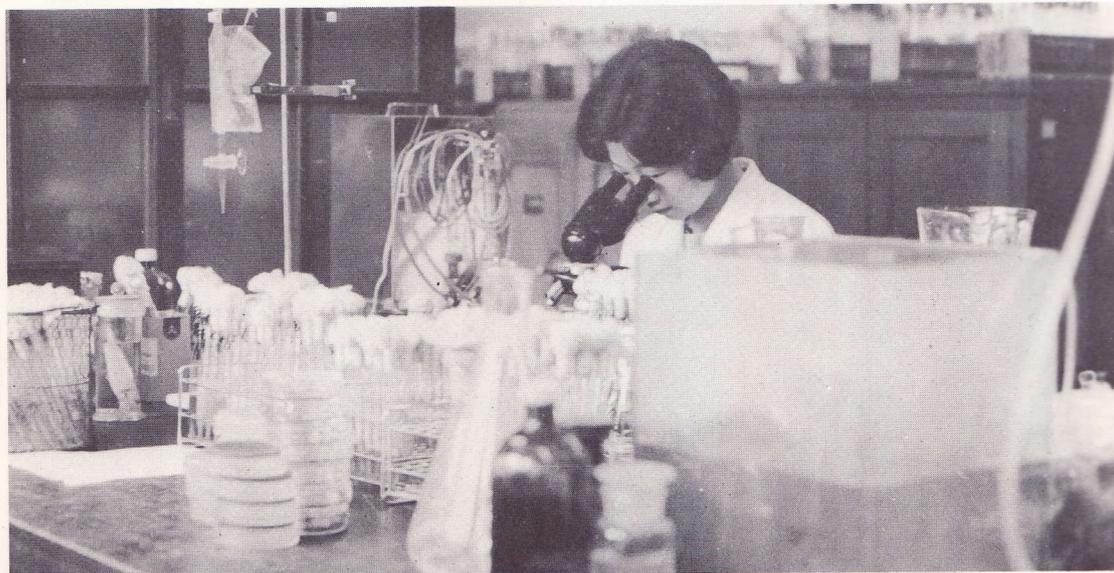
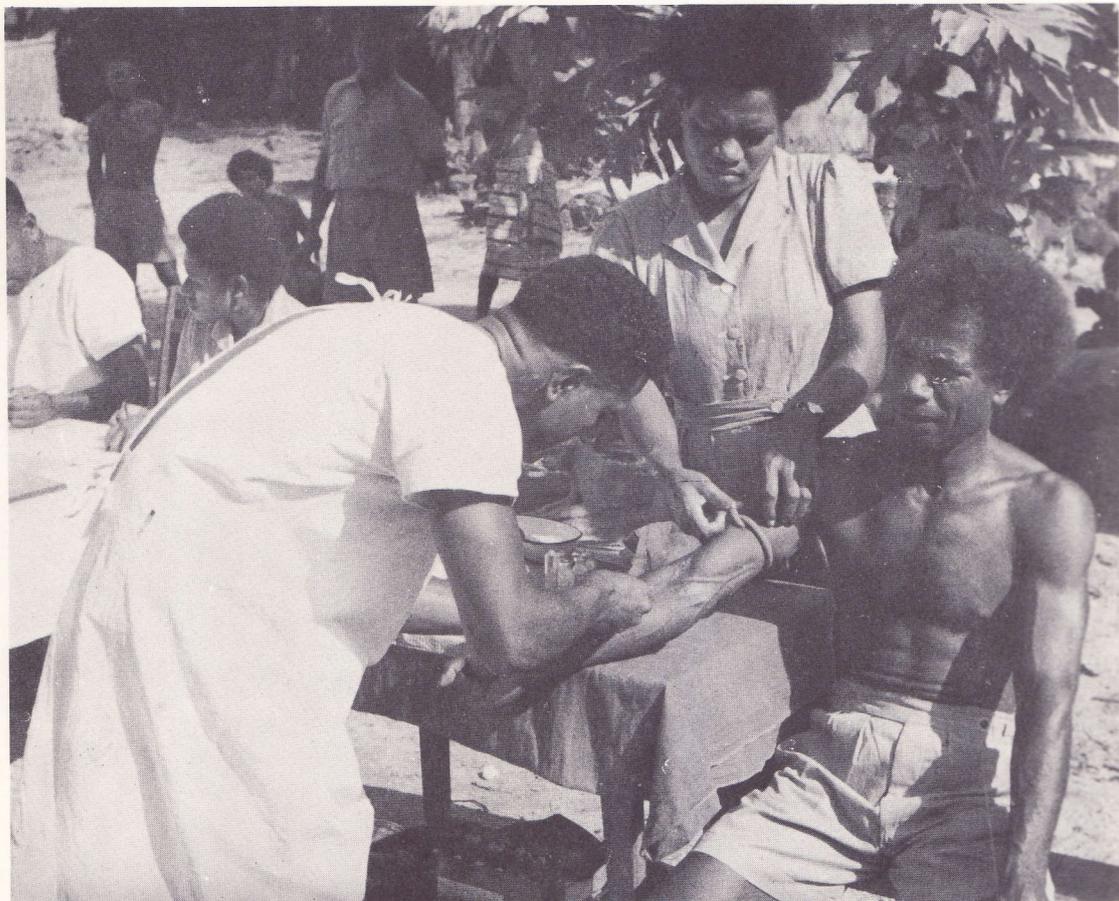
人間は、どこかの国にいても、いつの時代になっても健康で幸せでなければならない。WHOでは、専門家委員会の会議を通じて研究を行なっている。とくに増加するガンの原因究明のため1965年にフランスのリヨンに国際ガン研究機関を創設した。

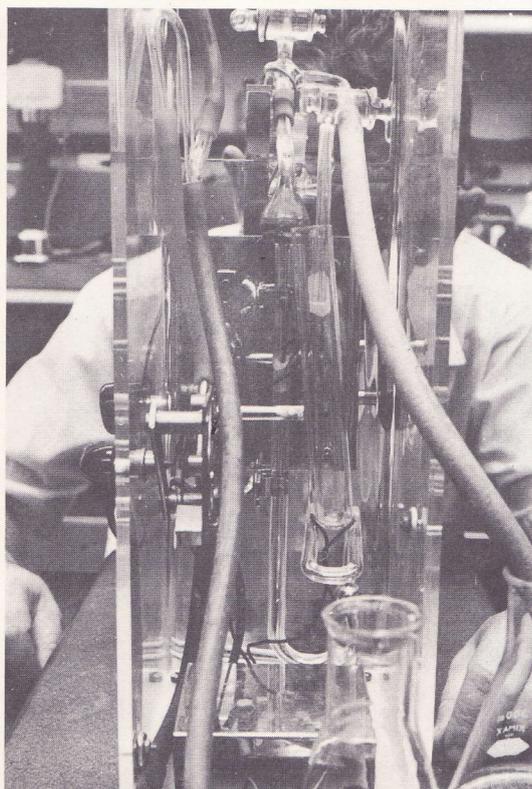
写真は、ガン手術とタバコに含まれるガン物質の究明実験



伝染病を予防する

伝染病には、国境がないといわれるとおり国際間の交通の目まぐるしい発達に伴わない、ペスト、コレラ、痘そう等の恐ろしい伝染病が各国に伝播し易いので、それを防ぐためWHOは、すべての陸海空の交通に適應する国際衛生規則を定め、加盟国の検疫に関する規則や措置を調整し、国際間の旅行者に対する必要な予防接種を行なわせている。





文化の進むにつれ、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動などの公害の発生、上下水道、清掃施設等の生活環境施設の不備、ビルディングの増加による人工的環境あるいは住宅不足からくる過密住など、居住環境についての問題が人間の健康と福祉の上に大きな影響をもたらしつつあるので、WHOでは、これらの調査、公害の測定等にも取り組んでいる。

くらしの環境を
整える